



TITLE:

尿路感染症に対するマドレキシンの効果について

AUTHOR(S):

竹内, 正文

CITATION:

竹内, 正文. 尿路感染症に対するマドレキシンの効果について. 泌尿器科
紀要 1974, 20(6): 421-423

ISSUE DATE:

1974-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/121667>

RIGHT:

〔泌尿紀要20巻6号〕
1974年6月

尿路感染症に対するマドレキシンの効果について

大阪大学医学部泌尿器科学教室

竹 内 正 文*

MADLEXIN FOR URINARY TRACT INFECTION

Masafumi TAKEUCHI

From the Department of Urology, Osaka University Hospital

(Director: Prof. T. Sonoda, M.D.)

Madlexin, a new cephalosporin agent, was administered to ten patients with genito-urinary infection. All of them responded and showed no side reaction. It was effective in several cases in which nalidixic acid and/or AB-PC were not effective.

緒 言

セファロスポリン系抗生物質は *Cephalosporium* の産生するセファロスポリンCより得る 7-ACA を母核とした1群の半合成薬剤である。この 7-ACA はペニシリンの母核である 6-APA と非常に似た構造をもっている。この構造類似性が両薬剤の作用機序を同じものとすると同時にある種の細菌では、両薬剤に対する交叉耐性が成立したりあるいは両者を分解する酵素が産生されたりする。しかし、一方このわずかな構造の差が両者の抗菌スペクトルの差を生んでいると思われる。

最近、泌尿器科領域で取り扱う尿路感染症の中で、とくに術前経過の長かった症例に対して観血的治療をおこない、術後、なおかなりの期間感染に対する治療を必要とするものが多い。

これは手術的な技術が向上し、適応範囲が広められるほど増加していくのは当然である。

今回著者は、このような症例をも含めて泌尿器科領域における感染症に対し、明治製菓株式会社より提供されたマドレキシンを使用する機会を得たので、その結果を報告する。

症 例

症例は市立伊丹病院泌尿器科外来を訪れた非特異性尿路感染症患者10例である。

感染部位としては Table 1 に示すごとく腎・膀胱・前立腺・尿道および陰嚢内の疾患を選んだ。すなわ

ち、症例1, 2, 3は慢性・急性腎盂炎, 4, 5, 6および7は膀胱炎, 8および9は前立腺部炎症, 10は急性副睾丸炎で、膀胱炎のうち症例4, 5および6は初回試用とした。

投 与 方 法

本剤の投与は、1,000~1,500mg/day を3~4回分服で7~14日間経口投与した。

効 果 判 定

効果の判定は、投与前後の尿中細菌定量培養、尿沈渣の白血球数、自覚症状の変化をあわせておこなった。

すなわち、自・他覚的に完治したと考えられるものを著効(卅)、膿尿のみ軽度残存するものを有効(卅)、膿尿・自覚症状の中等度に残存するものをやや有効(±)、投与前と不変または、それよりも悪化したものを無効(一)とした。

結 果

上記のごとき効果判定に従って、投与した10例の臨床効果を検討すると、著効6例、有効3例、やや有効1例、無効なしという結果を得た。

これを疾患ごとに検討してみると、まず初回試用した急性膀胱炎3例に対しては、いずれも服用後1~2日の間に強い排尿末期痛、頻尿が消失し、1週間後、来院時検尿では白血球は全くみられず、少数の上皮細胞を認めたにすぎなかった。また症例7の神経因性膀

* 助教授

Table 1

No.	年 齢	性 別	疾 患 名	本剤投与前 使用化学療 法剤	1日量 (mg)	期 間 日	投 与 前		投与後		自覚症状	効 果	副 作用
							菌	尿 中 白血球	菌	尿 中 白血球			
1	39	女	両側慢性腎盂腎炎 腎切石術後	CEX, NA AB-PC	1,000	14	—	+	—	±		+	—
2	33	女	右慢性腎盂腎炎 膀胱尿管逆流	NA, AB-PC TC	1,000	7	<i>E. coli</i> 10 ⁵	++	—	±	右側腹痛消失	+	—
3	58	女	左単腎(30年前結石にて右腎摘出) サング状結石 左慢性腎盂腎炎	NA, AB-PC CEX	1,500	7	<i>E. coli</i> 10 ⁵	+	—	—		++	—
4	31	女	急性膀胱炎		1,000	7		++	—	—	排尿痛, 頻尿 1~2日で消失	++	—
5	23	女	急性膀胱炎		1,000	7		++	—	—	〃	++	—
6	34	女	急性膀胱炎		1,000	7		++	—	—	〃	++	—
7	38	女	神経因性膀胱炎 慢性膀胱炎	NA AB-PC	1,000	7	<i>Klebsiella</i> 10 ⁵	+	—	+		+	—
8	48	男	尿道狭窄にて3年前内尿道切開術 慢性前立腺炎, 急性尿道膀胱炎	NA, AB-PC CEX	1,000	14		++	—	—	排尿痛消失	++	—
9	72	男	経尿道的な前立腺切除術後	NA, TC AB-PC	1,000	14	<i>St. epid.</i> 200	+	—	±	尿混濁消失	++	—
10	29	男	急性副睾丸炎		1,000	14		+	—	—	陰嚢内有痛性腫脹 5~6日で消失	++	—

肺炎ではそれまで NA あるいは AB-PC を長期間服用し、尿中へは常に、多数の白血球をみていたが本剤 7 日間の服用で尿中白血球数は半減した。

つぎにやはり初回試用した典型的な非特異性急性副睾丸炎と考えられた症例10に対しては、内服後 5~6 日目より陰嚢内疼痛が寛解し、腫脹も軽減し始め、7 日目には軽度の硬結を残すのみであった。

尿道および前立腺部炎症に対しては、症例8については後述するとして、症例9は前立腺腺腫に対し TUR を施行、退院後の膿尿が持続した患者で、術後入院時に AB-PC、退院後 TC、NA を投与したが、尿中白血球の減少をみなかったもので、本剤14日間投与で沈渣の白血球数は激減した。前立腺切除後などの留置カテーテルによる感染が持続した症例に対しても非常に有効であると考えられる。

最後に上部尿路感染症 3 例に対する効果を観察すると、症例1は1.5年前ならびに約1年前の2回にわたって、左および右腎切石術により両腎サング状結石を摘出した症例で、術後も慢性腎盂腎炎と考えられる膿尿が持続し、CEX、NA、AB-PC により尿中白血球の消長をみていた。とくに強拡大 1 視野60~80コの白血球数をみる場合には CEX のみ有効で、AB-PC、NA

ではほとんどその減少をみなかった。本剤投与後14日目で、尿中白血球数は1視野数個に減少した。

症例2は、頻回の右側急性腎盂腎炎をくりかえしていた女性で、膀胱撮影により右膀胱尿管逆流、IVP により右慢性腎盂腎炎と診断しえた症例である。急性炎症発症時に AB-PC、TC 等を使用していたが最近では、著効をみず、本剤を投与したものである。本症例に対しても、急性腎盂腎炎による自他覚所見は、投与後7日以内にほぼ完全に改善をみた。

症例3は、58歳女性で約30年前詳細は不明であるが腎結石の診断のもとに右腎摘除術を受けた。1971年ごろより左側腹痛、発熱を訴えて来院、精査の結果左単腎腎盂結石と判明、保存的療法により腎感染抑制に努めたが結石は増大し、1973年初めにはサング状結石となった。腎切石術をすすめたが、患者の希望により保存的療法を続け腎機能悪化の防止を続けた。急性腎盂炎の発症がない間は NA の投与を続け、尿中白血球、*E. coli* の増加したさいのみ AB-PC、CEX を投与、最近では、CEX 投与でも沈渣 1 視野30~40個の白血球数をみていた。本症例に対して当薬剤の効果をみるため7日間 1,500 mg 内服を続けたところ、白血球数は 3~5 コ/1 F となり左側腹部鈍痛も改善し

た。

症例8は、48歳男で、3年前炎症後尿道狭窄の診断にて内尿道切開術を施行、排尿障害は顕著に改善したが、その後も3～4カ月に1回急性膀胱尿道炎を発症して来院していた。そのつど、NA、AB-PC、CEXの投与をおこない改善をみていたが、最近ではCEXのみの効果がみられなくなり、他剤ではほとんど自覚症状の改善をみなくなっていた。本症例に対して1,000 mg/day 14日間の当薬剤を使用したところ、尿所見、自覚症状の著明な改善をみた。

以上2症例のうち症例3では、他のすべての薬剤に より改善をみなかった尿所見が本剤の投与により著効

をみており、単腎の感染という直接腎不全への危険性をもつ患者に対してきわめて有用な薬剤であったと考えられる。

なお、副作用については今回の使用10症例ではなんら特記すべきものを認めなかった。

総 括

上部尿路ならびに下部尿路感染症 患者10症例に対し、尿路感染部位、マドレキシン投与前化学療法剤との関係、副作用、に対して検討を加えた結果、マドレキシンがきわめて有効であることがわかったのでこれを報告した。

(1974年3月22日受付)

血 尿、抗アレルギー作用、 排尿困難、に 抗炎症作用、 排尿痛、上皮賦活作用、 尿意頻数、CPP(毛細管透過性亢進)抑制作用のある

- ▷ 特発性腎出血、急性出血性膀胱炎（小児出血性頻尿症）の血尿、術後出血をすみやかに消失させる。
- ▷ 血精液症ないし出血性精囊炎の血精液を消失させる。
- ▷ アレルギー性および非細菌性尿道炎の尿糸、炎症を消退させる。
- ▷ 急性膀胱炎、前立腺肥大症に伴う排尿困難、排尿痛、尿意頻数、残尿感を消退させる。

▶ 適応症

特発性腎出血、急性出血性膀胱炎（小児出血性頻尿症）、急性膀胱炎、急性膀胱尿道炎、非細菌性尿道炎、血精液症、術後出血



強力ネオミ/ファージェン C

包装 2ml 10管・100管, 5ml 5管・50管, 20ml 5管・30管 健保薬価 2ml 26円, 5ml 34円, 20ml 139円

M5058 文献御申越先 ミノファージェン製薬学術部 [〒107] 東京都港区赤坂8の10の22 (ニュー新坂ビル)